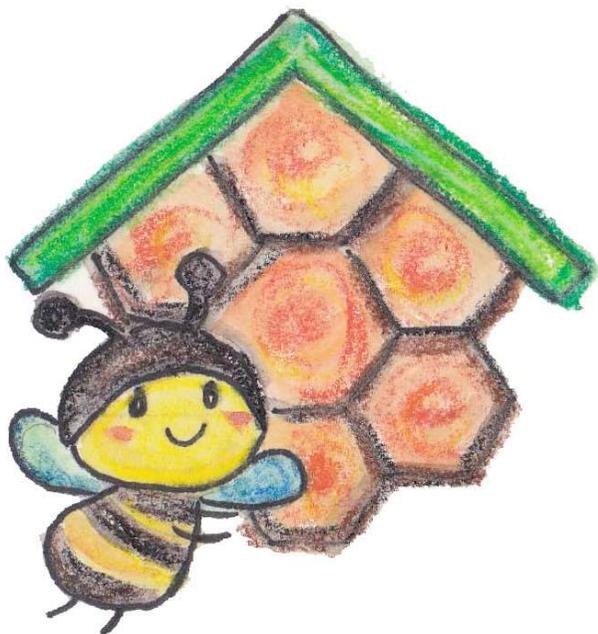


借上復興住宅問題

市川 英恵



借上復興住宅問題を知った経緯

- 阪神・淡路大震災時は1歳で、姫路にいた。被害無し。
 - 大学入学1年前に東日本大震災→「大学で東北支援をしたい」
 - 「東北支援に役立たずかな」と、阪神・淡路大震災の復興住宅で“ふれあい喫茶”の活動を続けている学生サークルに入る→借上復興住宅問題
- ★東北の復興問題でもあると知る。

なぜここにいるのか

- 大学生が毎年開催している地域の祭「灘チャレンジ」の劇企画で、「借り上げ住宅問題～私の住居(くらし)はどこへ～」を披露。
 - 卒業論文の研究テーマにした。
 - 大学の後輩の授業や、中高一貫校の授業でお話しさせていただいた。
- ★ 「色んな人に考えてもらいたい問題」

なぜ取り組んできたのか

●劇企画の台本作成の際、借上復興住宅入居者に取材したり、借上復興住宅の会議に参加したりするなかで、当事者の声を聴いてきたから...

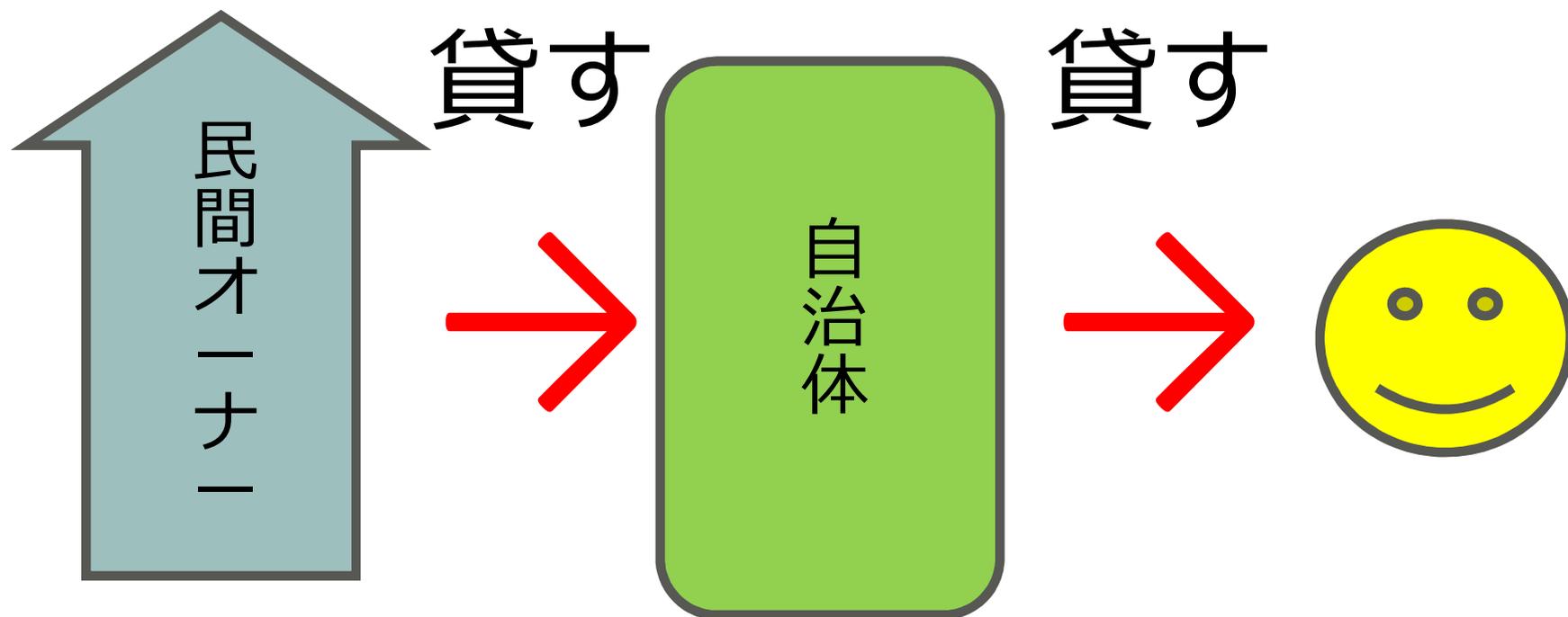
★それを伝えるのが私の役割！



借上復興住宅って何??

- 22年前の1月17日、阪神・淡路大震災。
 - 約46万世帯が住まいの再建を余儀なくされた。
 - 被災者には高齢者・低所得者が多い→自力で再建できない。
 - 多くの復興公営住宅が必要に。
- ※避難所→仮設住宅→復興公営住宅

そこで導入！！「借上復興住宅」



借上方式は「画期的」！！

- 土地取得費、建設費、等といった多額の初期費用が要らない→お金も時間も無い震災後にピッタリ。効率的。
- 新たな土地の取得が困難な地域でも、公営住宅の供給が可能。
- 公営住宅の供給量の調整が可能。

神戸市の復興公営住宅供給実績

直接建設

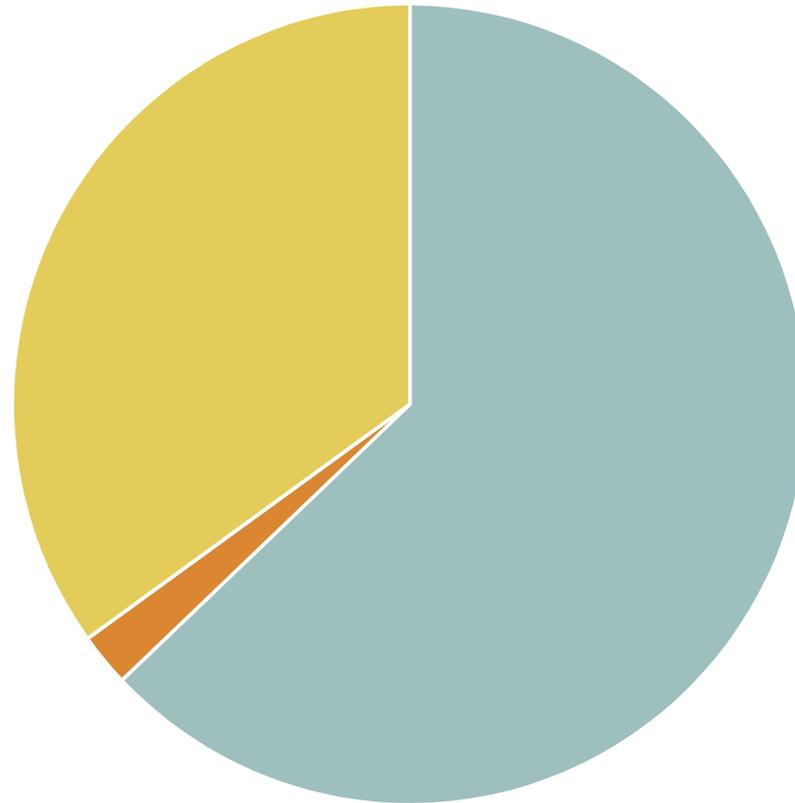
6729戸（80棟）

買い取り

230戸（1棟）

借り上げ

3738戸（120棟）



当時の神戸市長の手紙

「この度は、恒久住宅への転居が決まりましたとのこと、本当におめでとうございます。長い間、ご不自由をおかけいたしましたので、お喜びもひとしおのことと存じます。」

「きっと新しい住居でも多くのお友達を作られ、生活を楽しんでいかれると確信いたします。」

震災から15年経って 表面化したのが「20年問題」

“お知らせ”が届いた入居者たち

「全く知らなかった」

「仮設に神戸市の人が何度も説明に来たが、ほかの公営住宅との違いについて説明はなかった」

「20年後の退去を知っていたら応募していない」

職員の証言

「とにかく入居してほしい。20年先のことは悪いようにはしない。誠実に対処していく」

「入居者が自主的な対応（転居）をして頂けると思った」（震災時の知事）

「一刻も早く仮設住宅を解消するのが最大の目的だった。庁内で返還問題を議論したことはないし、明け渡しの義務を入居者に説明していたかといえどノーだ」

なぜ、こんなことに??

2010年6月「第2次市営住宅マネジメント計画」において、市営住宅の管理戸数を10年間で7000戸減らし、財政健全化の方針へ

→借上復興住宅が減らしやすい

→入居者の追い出しに舵を切る

※借上料が会計を著しく圧迫しているという分析は筋違い

入居戸数（2016年11月末）

- 兵庫県 1148戸 「判定委員会」
- 神戸市 1472戸 85歳以上、要介護3以上、重度障害
- 西宮市 98戸 全員退去
- 尼崎市 92戸 兵庫県と同様
- 伊丹市 41戸 全員継続入居
- 宝塚市 30戸 全員継続入居
- 豊中市 32戸 全員退去

入居者の声

「ほんとうにもう動けないのです。」

「常にこの話が頭をよぎり不安」

「この事で体を悪くしました。不眠症など。」

「不公平」

「住んでなじむという事は、口では、簡単には言えないものです。生活する、一番の基ソに住宅があつての事です。」

【大学生の感想①】

「完全に復興したと正直なところ思っていました。」

「高齢者や低所得者の為につくられたはずの借り上げ住宅が(中略)住んでいた人々が不安にかられるようになったことは悲しいことだし、自治体は無責任だと思いました。」

【大学生の感想②】

「強制退去に反対する署名や市民の声もたくさんあるのに神戸市長は退去を押し進めようとしていて、市民の声を無視して市民が納得する市政ができるのか疑問だった。」

「自治体によれば、20年を過ぎてもそのまま住んでも良いとしているところもあると聞いて、余計に自治体は市民と向き合って、直に話を聞くなどして、解決策を考える必要があるだろうと思いました。」

【大学生の感想③】

「日本において、憲法のPriorityが低いのだなという認知、そしてそれが意外にも重要なのだという事実に気づきました。」

「今後このような問題を起こさないためには、市長、市議会を選ぶ段階から気をつけていくこと、つまり選挙や政治に関心を持っていくことが大切になっていくのではないかと思う。そして今の神戸市には住民との対話の機会をしっかりと設けてほしいと感じた。」

「高齢者の問題」ではない！！

●災害、格差・・・いつ誰がどういう立場に置かれるか分からない社会

→住まいやコミュニティの重要性を多くの人に認め
てもらう。

●選挙に行こう。裁判傍聴に行こう。

※西宮 4月19日11時30分～尼崎支部

神戸 5月16日10時～神戸地裁

